

令和2年度

第3回 弘前市協働によるまちづくり推進審議会

日時：令和2年8月25日（火）午後6時～
場所：弘前市役所市民防災館3階 防災会議室

次 第

1 開 会

2 議 事

条例に関連する事業の実施状況の評価及び改善点等について審議

学生力が発揮されるまちづくりの推進のための取り組み

3 事務連絡

4 閉 会

第2回審議会（7/29開催）での主な意見（報告）

No.	分類	意見
1	地域活動の定義	<ul style="list-style-type: none"> 今後調査していく地域活動に参加している学生の人数に関わってくるため、学生の地域活動とは何かをしっかりと決める必要がある。
2	市と学生の関わり方について	<ul style="list-style-type: none"> 市は学生を活用するというだけでなく、学生が地域と関わりを持つことで、学生に学びの場を提供するという人材育成の視点も必要。 学生や既存のサークル団体等との連携だけではなく、教授などとも連携し、プロジェクト研究のように授業の一環として市と関わり持ってもらうことがより質の高い事業となり、学生にとっても、教員などの提案を受けることで学びの場ともなる。 まちづくりを考える上では、都市計画や、中心市街地の活性化について考える場、意見交換する場にも学生の参加を促し、学生目線のまちのあり方についてもアイデアをもらう場を設けたらいいと思う。
3	学生がまちづくりに参加するうえでの配慮	<ul style="list-style-type: none"> 学生との協働を検討するうえでは大学毎のニーズや課題、学生の特徴などを正確に把握したうえで、働きかけることが必要。 学生が市の補助制度を活用するうえで、企画書などの作成にあたり、教授などを頼ることができない場合も想定されるため、行政側も書類の作成方法などについて懇切丁寧に説明することが必要。
4	市から学生への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 市のイベント等の情報発信ツールが混在しており、どれを見るべきかわからない。 各種事業に学生の参加を求める場合は、求める学生の意識レベルがわかるよう案内の表現の工夫が必要。

No.	分類	意見
5	学生と地域の繋がり の促進について	<ul style="list-style-type: none"> 市と学生だけでなく、町会など市民等と学生が繋がりやすい仕組み(窓口の設定など)について検討して欲しい。 有料で地域活動をしており、ホームページから申し込みができる学生サークルなどもあるため、学生の地域活動情報を広く市民に伝える仕組みが必要。 学生と企業を結び付けるうへは、弘前市の基幹産業であるリンゴ関係の企業についても積極的に活用して欲しい。
6	学生の参加意欲向上 について	<ul style="list-style-type: none"> 金銭面に余裕がないことも学生の特徴のひとつであるため、ボランティアとしてだけでなく、アルバイトとして市の事業に参加させることを検討して欲しい。 単位取得が学生の参加意欲向上に繋がるケースもあるため、大学との連携協定などをうまく活用することが必要。
7	附属機関委員につい て	<ul style="list-style-type: none"> 学生が附属機関の委員となることは市政の理解を深め、市に対して提案できる貴重な機会となるため、各機関の性質などを踏まえたうえで、積極的な学生の活用を検討すること。
8	インターンシップ制 度	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップについて、近隣自治体に先進的な事例もあるため、市としてのインターンシップの受け入れ体制の改善についても検討してもいいのではないかと。
9	地域愛の醸成	<ul style="list-style-type: none"> 学生が地域活動に積極的に参加してもらうためには、地域を好きになってもらうことも重要なため、地域愛を育む取り組みについても検討すること。 例えば、新1年生限定で地域施設の年間パスポートを発行し、市の施設に行きやすい環境を整備するなど、学生が地域のことを知る機会を創出してみてもどうか。

本日（第3回）の審議内容について

諮問事項 「学生力が発揮されるまちづくりの推進のための取り組み」

審議の手順

1 「学生力」とは何か。

事務局が考える「学生の特徴」（資料3-1）を参考にしつつ、「学生力」とは何かについて、ご意見をいただきたい。

2 市と学生の関わり方について

2019年度における市と学生が関わりのある市の事業（資料3-2）について、事業の性質、学生の関わり方などから下記のとおり分類。

1) 人材育成

— (1) 大学側が企画、(2) 市主催のイベント、(3) 学生の実習の受け入れは、学生への「弘前市及びまちづくり」に関する情報提供の方策として議論していただきたい。

（主な意見＝地域愛の醸成のためには弘前市について、知ってもらうこと。知的理解、情緒的理解等）

ア) (1) 大学側が企画＝市長、職員等が大学（学生）に出向いて行う方法—その際の情報提供の留意点

イ) (2) 市主催のイベント、(3) 職場体験＝学生が市主催のイベントや資格取得などの目的で市の講座を受講したり施設等で実習を行う方法—その際の情報提供の留意点

ウ) その他—「主な意見」中の「パスポート」等の方策

2) 市の附属機関への『学生委員枠』の設定—自由な議論をいただきたい

3) 事業の参加

— (1) 事業への協力・謝礼あり (2) 謝礼なし (3) 事業への企画・提案・実践は、「学生」に「弘前市が事業として実施しているまちづくりに参加」してもらうための方策として自由な議論をいただきたい

ア) 事業への協力・謝礼あり（アルバイトでのイベントのスタッフ）

イ) 事業への協力・謝礼なし（ボランティアでのイベントのスタッフ）

ウ) 事業への企画・提案・実践

4) 補助制度の活用（まちづくり活動の企画、実践）

— 学生の活動に補助金を交付する方策として議論していただきたい

ア) 学生地域活動支援事業

イ) 市民参加型まちづくり1%システム支援補助金

ウ) その他

5) 「学生」と「市民団体」との「協働のまちづくり」を促進するための方策

—市民団体から学生への呼びかけによる協働の実践

ア) 市民と学生の活動のPRの方策

イ) 市民と学生の活動のマッチングの方策

『1 「学生力」とは何か』で話し合った「学生力」を念頭に置きつつ、各分類それぞれについて、下記に示す審議の視点から評価・検証を行い、市の取り組みに対する改善策や、学生力が発揮されるまちづくりの推進のための新たな取り組みなどについてご意見をいただきたい。

【審議の視点】

- ① **学生力を十分に引き出す仕組みになっているか。**
- ② **大学との連携、学生の人材育成が図られ、学生の地域活動や地域社会との関わりが促進されているか。**
- ③ **市全体として積極的に学生と関わりを持つことができているか。**

《 参 考 》

【事務局が考える学生の特徴】

- 若さ、エネルギー、勢い、マンパワー（1万人）がある。
- チャレンジ精神が豊富である。
- 柔軟な発想力がある。
- 吸収力が高い。
- 学業で得た専門知識や、様々な特技がある。
- 周囲に活力を与える。
- 市外出身者も多い。
- ネット、SNS 利用者が多い。
- 流行に敏感である。
- 教授の存在が大きい。
- 子どもと大人をつなげることができる。
- 学生間のつながりは強いが、その他（地域など）との関わりは弱い。
- 社会経験が不足している。伸びしろがある。
- 卒業により継続が難しい。
- 毎年新しい学生が生まれる。
- 金銭面にゆとりがない。
- 学業、サークル、アルバイトなど忙しい。

2019年度における「市と学生の関わりがある事業」

1) 人材育成

(1) 大学側が企画（大学での授業などに市長、職員を派遣し、弘前市の取り組みについて情報提供や講演するなど）

No.	部署名	事業名等	事業概要	関わり方	参加人数等 【R元実績】
1	企画課	弘前大学「地域課題研究」への授業協力	弘前大学人文学部金目准教授が担当する「地域課題研究」へのゲストスピーカー、授業協力等を行うもの。	講義の受講	3名
2	企画課	共通授業	弘前大学、弘前学院大学、東北女子大学での共通授業（3日間の集中講義）を実施。市職員もゲストスピーカーとして講義するもの。	講義の受講	46名
3	企画課	弘前大学「ベンチャービジネス論」市長講演	弘前大学高島准教授が担当する「ベンチャービジネス論」で市長講演を実施するもの。	講演参加	約100名 (弘前大学)
4	企画課	弘前大学「グローバル社会・経済」市長講演	弘前大学多田講師が担当する「グローバル社会・経済」で市長講演を実施するもの。	講演参加	12名(弘前大学)
5	企画課	市長と学生の放課後ミーティング	学生委員会「いしてまい」が櫻田市長と意見交換するもの。	意見交換参加	7名(いしてまいメンバー)
6	企画課	先端医療研究開発プロフェッショナル人材育成事業	学生・大学院生・若手研究者が先端的な医療について学ぶ機会を創出するため、著名な研究者を招いた特別講演の開催や学生等の海外派遣を支援するもの。(市は寄附金を支出)	講演参加 海外派遣	・特別講演(3回) 約205名 ・海外派遣11名
7	企画課	拡大版やわラボ実施の相談	現在実施している「やわラボ」を弘大祭で実施できないか、市長を招待できないか学生から打診があったもの。	意見交換参加	不明
8	管財課	市のファシリティマネジメントの取組について	弘大人文飯島教授の講座「自治体政策研究」のテーマとして取り上げられ、講義を実施。	講座の受講	6名(弘前大学)
9	市民税課	弘前市出前講座	金目教授からの依頼で、学生の税金に関する知識の向上を図るための講座を行うもの。	講座の受講	20名(弘前大学)
10	市民協働課	弘前リードマン認定・派遣事業	まちづくりの実践者「弘前リードマン」を団体等に派遣し、講演会等を通じてまちづくりの大切さを知ってもらうもの。	事業活用	30名(放送大学青森学習センター)
11	市民協働課	出前講座	町会の歴史や町会活動の事例紹介をすることで、町会活動への理解を深めてもらうもの。	講座の受講	約70名(弘前医療福祉大学)

12	介護福祉課	認知症サポーター養成講座	認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を見守り支援する人（＝認知症サポーター）を養成するもの。全国的な取り組み。	講座の受講	①弘前医療福祉大学保健学部医療技術学科 ：28名 短期大学部介護福祉学科、救急救命学科：44名 保健学部看護学科：54名 ②弘前大学医学部保健学科 ：44名 ③弘前厚生学院 ：16名 ④東北女子短期大学生生活科 ：20名
13	健康増進課	ゲートキーパー養成講座	あらゆる世代の人が心の悩みを持つ人への理解を深め、ゲートキーパー（命の門番）として「気づき・傾聴・つなぐ・見守る」という役割を担えるよう人材を育成するもの。	出前講座や授業等	①弘前大学看護学生：76名 ②弘前学院大学看護学生：69名 ③弘前市医師会看護学生：32名

(2) 市主催のイベント、講座などに学生が参加

No.	部署名	事業名等	事業概要	関わり方	参加人数等 【R元実績】
1	企画課	ひろさき未来創生塾	地域活動を実践することができる市民を育成する人材育成塾を開催するもの。	塾生	2名
2	企画課	地域マネジメント人材育成プログラム構築事業	学生が地域で学び、やがて地域で活躍、地域を牽引する人材として育成するためのプログラム	事業への参加	14名
3	防災課	防災マイスター育成講座	地域防災の推進者となる市民の育成を目的に、大学教授・気象台・防災士会等が講師となり、約6日間にわたって実施されるもの。防災士養成講座も兼ねており、修了した際には、「弘前市防災マイスター」の資格が付与されるとともに、防災士試験の受験資格も得ることができるもの。	講座の受講	9名 (弘前大学)
4	市民協働課	弘前まちながサミット(フォーラム)	身近なまちづくりをしている人の講話や参加者同士の交流を通じ、まちづくりについて考えるイベントを開催するもの。	事業への参加	2名 (弘前医療福祉大学短期大学部)
5	市民協働課	町会便り作成講座	地域住民に町会の活動や内容を知ってもらうため、町会の特色や活動をまとめた町会便りの作り方を学ぶもの。	講座の受講	1名(弘前大学)

(3) 学生の実習受け入れ（職場体験など）

No.	部署名	事業名等	事業概要	関わり方	参加人数等 【R元実績】
1	人事課	インターンシップ 事業	学生の職業意識の向上及び市政に対する理解の醸成を図るため実習生を受け入れるもの。	業務体験や見学	30名
2	福祉総務課	社会福祉基礎実習	青森県立保健大学の依頼を受け、福祉事務所の業務の実習を行うもの。	実習生の受け入れ	3名
3	生涯学習課	社会教育実習 受け入れ	社会教育主事資格を目指す弘前学院大学の学生が市立公民館など社会教育の現場で実習を行うもの。	社会教育事業へ参加	10名 (弘前学院大学)
4	博物館	博物館実習生 受け入れ	学芸員を目指す学生が履修する博物館実習の実習生を受入れるもの。	実習生として参加	弘前学院大学4名 日本大学1名
5	高岡の森 弘前藩歴史館	博物館学芸員 実習受け入れ	大学等での学芸員資格取得での履修科目であり、市立博物館と合わせ実習を行うもの。	現場実習	弘前学院大学4名 日本大学1名

人材育成に関する成果

<ul style="list-style-type: none"> ・弘前の将来を担う人材の育成を図ることができている。 ・市の取り組みについて理解を図ることができている。 ・医療や福祉など幅広い分野の知識を教授することができている。 ・まちづくりに関する理解を深めることができている。

人材育成に関する課題

<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの受け入れ先の選定に苦慮している（希望する課が繁忙期であるなど対応できない場合もある） ・講座等を受講し、得た知識を有効活用する実践の場が少ない。 ・参加（受講）する学生を増やしたい。

2) 市の附属機関への「学生委員枠」の設定

No.	部署名	事業名等	事業概要	関わり方	参加人数等 【R元実績】
1	市民協働課	弘前市協働によるまちづくり推進審議会	協働によるまちづくりに関する市の諮問事項について毎年審議するため、市の附属機関として設置しているもの。	附属機関の委員	1名(弘前大学)
2	市民協働課	弘前市まちづくり1%システム審査委員会	応募された事業の採択や補助金額の精査、事業完了後の効果検証などについて、市民目線での審査を行うもの。また、制度の見直し・検討も行うもの。	附属機関の委員	1名(弘前学院大学)

市の附属機関への「学生委員枠」の設定に関する成果

- ・他の委員とは異なる学生目線での新鮮な意見があり、会議が活発化された。

市の附属機関への「学生委員枠」の設定に関する課題

- ・他の委員に遠慮する場面も見られるため、話しやすい雰囲気作りが必要となっている。
- ・委員となりうる学生の確保が必要となっている。
- ・現在、委員が選任されている市の附属機関が50あるうち、学生を活用しているのが2つとなっている。

3) 事業の参加

(1) 事業への協力 (マンパワーの提供) ※謝礼あり

No.	部署名	事業名等	事業概要	関わり方	参加人数等 【R元実績】
1	広聴広報課	工業統計調査	市内で製造業を営む事業所への調査を実施するもの。	調査員活動に従事	5名 (弘前大学)
2	広聴広報課	毎月勤労統計調査	事業所へ給与及び労働時間等についての調査を実施するもの。	調査員活動に従事	2名 (弘前大学)
3	広聴広報課	市民意識アンケート	無作為抽出されたアンケートの対象者に対する調査票の配布及び回収をするもの。	調査員活動に従事	4名 (弘前大学)
4	観光課	四大まつり開催事業	四大祭りを運営するもの。	まつり運営補助スタッフとしてアルバイト雇用	さくら：31名 ねふた：8名 雪燈籠：6名
5	高岡の森 弘前藩歴史館	夏休みイベント(マンドリン演奏・体験)	小中学校の夏休み期間に親子向けイベントの一つとして開催するもの。	マンドリン演奏 (業務委託)	5名 (弘前大学マンドリン倶楽部)

(2) 事業への協力 (マンパワーの提供) ※謝礼なし

No.	部署名	事業名等	事業概要	関わり方	参加人数等 【R元実績】
1	防災課	弘前市総合防災訓練	市防災機関の連携、及び地域防災力の強化・維持を目的に、年1回総合的な防災訓練を実施するもの。	訓練時の負傷者役 (医療福祉大生) 市民防災体験コーナーブース運営 避難誘導役、避難所でのボランティア役など。	36名 (弘前大学、弘前医療福祉大学)
2	市民協働課	町会便り作成講座	地域住民に町会の活動や内容を知ってもらうため、町会の特色や活動をまとめた町会便りの作り方を学ぶもの。	講座補助員として、講座のサポート	延べ4名 (2名×2回)
3	市民協働課	出前講座	町会の歴史や町会活動の事例紹介をすることで、町会活動への理解を深めてもらうもの。	講座での事例紹介	2名 (弘前大学)
4	市民参画センター	ボランティア支援事業(ボランティアコーディネート)	弘前市ボランティア支援センターに照会があったボランティア募集について「コーディネーター」として市内高等学校、大学等へ照会を行うもの。	各種ボランティア	イベント数4 学校数3校 参加日数10日 参加人数70名
5	福祉総務課	野田村交流活動 (被災地支援事業)	東日本大震災の被災地である岩手県野田村へ赴き、交流支援を行うもの。	野田村での交流活動(ボランティア)	7/6実施：10名 7/28実施：11名

6	福祉総務課	愛のひろばレクリエーションの集い	障がい児者と家族および市民とボランティアがレクリエーションを通して楽しく交流を深めるもの。	障がい児者との交流、会場設営、イベントの盛り上げ	15名 (弘前医療福祉大学短期大学部)
7	福祉総務課	社会を明るくする運動事務連絡メッセージ伝達式及び決起大会	社会を明るくする運動の決起大会に弘大 teens&law (弘大公認サークル) 所属の学生が参加するもの。	メッセージ代読、決意表明	3名(弘前大学 teens&law)
8	生活福祉課	子どもの学習支援事業	貧困の連鎖を防止するため、被保護者世帯を含めた生活困窮者世帯の中学生等に対し、学生ボランティアによる学習支援を実施するもの。	学生が参加者を個別に支援	(登録者 20 名) 参加実績 146 名
9	こども家庭課	ふたごちゃん、みつごちゃんの集い	多胎児とその保護者の交流の場として、元年度は大学と共催し、紙コップランドを開催するもの。	運営補助 (親子との関わり)	3名(弘前大学)
10	こども家庭課	グッド・トイ 2019 in ひろさき	木育の普及・推進を図るため、グッド・トイや木のおもちゃに触れる機会を提供するもの。	障がい者への対応 (言語聴覚士を志す学生)	20名(弘前医療福祉大学)
11	健康増進課	市民の健康まつり	市民に健康づくりのきっかけとするため、医師会、歯科医師会、薬剤師会並びに関係団体とともに実施するもの。	測定、学校紹介	不明 (弘前市医師会看護専門学校)
12	健康増進課	プロジェクト健診(岩木健康増進プロジェクト推進事業)	岩木地区住民の健康調査(プロジェクト健診)を行い地区の健康課題を明らかにし、個人の生活習慣病予防並びに健康増進を図るもの。	健診従事	不明 (弘前大学)
13	健康増進課	いきいき健診	弘前大学が実施する 65 歳以上の高齢者を対象とした全国 8 拠点で実施される健康長寿社会の実現を目指した大規模健康追跡調査に協力するもの。	健診従事	不明 (弘前大学)
14	健康増進課	5 歳児発達健診・相談事業	5 歳児を対象とした発達に関する市独自の検査内容、検査結果の保護者向け資料作成等の研究を弘前大学に依頼するもの。	・健診内容研究 ・健診従事	不明 (弘前大学)
15	スポーツ振興課	キッズフェスタ with 筑波大学(一部が弘前市共催)	オープン戦無料開放、野球教室、指導者講習会を開催するもの。	事業協力	51人
16	スポーツ振興課	ブラジル視覚障がい者柔道チーム強化合宿	東京 2020 パラリンピックに向けた強化合宿を受入れ、トップアスリートとの交流や他国への興味を促すもの。	事業協力 (稽古の相手)	約 20 人(弘前大学柔道部) 約 6 人(仙台大学柔道部)
17	国際広域観光課	台南トラベルフェア出展	観光プロモーションを行い、台南市での認知度・興味度を向上させ、台湾からの誘客を図るもの。	PR ブースでアンケート実施	4名(弘前大学)

18	生涯学習課 (中央公民館)	外国人留学生から直接聞ける世界のおはなし	弘前大学で日本語を学ぶ留学生が日頃の勉強の成果を発表する場として出身国の文化やくらしについて日本語でお話しをするもの。	「弘前大学との地域づくり連携事業」の一環として実施。留学生にとっては授業の一環でもある。	2回実施 (1回目)16名 (2回目)9名
19	生涯学習課 (中央公民館)	弘前大学との地域づくり連携事業 「新米パパ応援講座」	子育てに関心を持っている男性を対象に、子育てに必要な知識や実技体験を学ぶための講座を開催するもの。	講師の助手	約10名
20	生涯学習課 (中央公民館)	中学生×医師交流プログラム	医師・医学生との交流等とおし、医療職への理解を深めるとともに、自律的に学ぶ心やチャレンジ精神を育むもの。	中学生との交流	約5名(弘前大学)
21	中央公民館 岩木館	いわきっずクラブ 公民館でお泊り会	公民館での宿泊体験、市内移動学習、異年齢の縦割り活動を実施するもの。	グループへの支援、準備、片付けなど	2名 (弘前学院大学1名、弘前大学1名)
22	中央公民館 岩木館	いわきっずクラブ 公民館で学習会	冬休み中の学習会の学習指導を実施するもの。	学習指導	1名(弘前大学)
23	中央公民館 岩木館	子育てサロン「岩木びよびよひろば」	◆体験講座「アロマ体験と病気に関するお話し会」を実施するもの。ひろばに参加の保護者対象の講座。アロマ体験ではアロマオイルを使ってハンドクリーム作りを体験。お話し会ではインフルエンザなど冬に流行る子どもの病気に関する基礎的な話や対処法など質問も受けながらの解説。	講師の助手	1名(弘前大学)
24	中央公民館 岩木館	子育てサロン「岩木びよびよひろば」 ・リフレッシュ講座 ・ハーバリウム ・フラワーアレンジメント ・もちつき会 ・Gボール	◆びよびよひろば主催の講座 ひろばに参加の保護者対象、または親子対象の講座を実施するもの。	乳幼児の託児	1名(弘前大学) ×5回
25	文化財課	伝統的建造物群保存地区保存事業	仲町伝建地区の保存活用を図るため、公開活用イベント及び板塀修復ワークショップを開催するもの。	・ワークショップへの参加 ・市民との交流	5名 (東北工業大学)

(3) 事業への企画、提案、実践

No.	部署名	事業名等	事業概要	関わり方	参加人数等 【R元実績】
1	企画課 環境課	学生委員会「いしてま い」による衣類回収ボ ックス設置運動	市との連携により、弘前大学及び弘前学院大学 において期間限定で衣類回収ボックスを設置 するもの。	・設置個所の検討 ・他学生へのPR	学生委員会 「いしてまい」
2	広聴広報課	弘前ポスター展 2019 (未来の担い手地域 づくり推進委員会が 市の負担金を受け実 施)	弘前の土手町商店街を学生が1人1店舗ずつ取 材しポスターを作成し、ポスター展を開催する もの。	ワークショップ参 加者として	3名(弘前大学)
3	広聴広報課	ひろレポ ※令和元年度で終了	広報ひろさき内に「もっともっと弘前」という 学生企画のページを設け、学生が取材した弘前 市の魅力やイベントなどを発信するもの。	記事の企画、取材、 校正など	7名
4	環境課	街なかカラス対策事 業	カラス対策連絡協議会での市民や企業からの 意見・要望等を踏まえ、弘前市街地におけるカ ラス被害を減少させることにより、市民生活を 守るもの。	研究	3名(弘前大学)
5	障がい 福祉課	hug work サテライト事業	市役所で実施している hug work (ハグワーク) を 大学内で実施。販売については学生も一緒に実 施し、障がいがある人と共に従事しているも の。	事業への参加	1回につき 1~3名従事 (弘前学院大学)
6	こども 家庭課	食育フェスティバル in ヒロロスクエア	食育への関心を高め、健康の促進を図るため、 地元の食品と健康をテーマに体験・展示等のイ ベントを開催するもの。	イベント運営 石鹸、食品の企画・ 作成	10名×2回 計20名 (弘前医療福祉大 学、東北女子短期 大学)
7	観光課	まち歩き観光パワー アップ事業	負担金を支出する委員会において、まちあるき のモニターとして留学生を活用するもの。	インバウンド対応 の研修のためのモ ニター	約6名(弘前大学 留学生)
8	文化振興課	弘前城薪能開催事業	弘前公園を会場とした能狂言の公演を学生ら を含む市民、文化芸術関係団体、地域企業、行 政の協働により開催するもの。	意見交換	6名 大学コンソーシ アム学生委員会 「いしてまい」
9	地域交通課	弘南鉄道大鰐線対策 事業【大鰐線利用促進 事業】	ビジネス戦略実習において、市が地域企業の一 つとして、学生への課題提示・課題解決のため の指導等を実施するもの。	弘南鉄道大鰐線利 用促進に係るアイ デア出し	5名(弘前大学)
10	公園緑地課	弘前公園さくら研究・ 育成事業	弘前公園のサクラの延命、管理技術、新品種開 発の研究するもの。	研究補助	2名(弘前大学)

11	相馬総合支所 総務課	弘前大学人文社会科学部 社会調査実習受け入れ先紹介	りんご栽培・経営の基本的な特徴や、コミュニティ、相馬の暮らしの奥深さや相馬住民の魅力を調査するもの。	ポスター掲示、冊子刊行による相馬の魅力発信	約 30 名
12	生涯学習課	弘前市少年教育指導員派遣事業	地域少年団体等を育成指導し、少年の健全な成長を図るもの。	事業の企画・運営	8 名 (弘前大学) 1 名 (弘前学院大学) 1 名 (東北女子大学)
13	生涯学習課	放課後子ども教室事業	放課後の子どもの居場所づくりを主な目的として、子どもたちに学習支援や体験活動の機会を提供するもの。	講義として参加する場合と、協働活動サポーターとして自主的に参加している場合がある。	延べ 746 名 (弘前大学教育学部)
14	生涯学習課	成人式	成人式企画運営委員として、式典の企画・運営などに関わっているもの。	成人式の企画・運営	1 名 (弘前大学) 1 名 (弘前学院大学) 3 名 (東北女子大学)
15	生涯学習課 (中央公民館)	子どもクラブ事業「ラジオ劇団」	グループになってラジオドラマを制作することにより、共同作業をするために必要な知識等を習得してもらうもの。(年 8 回)	ラジオドラマ制作指導	14 名 (弘前大学ラジオサークル)
16	生涯学習課 (中央公民館)	弘前市子どもの祭典実行委員会支援事業	中高生の実行委員会が子どものためのイベントを企画運営するもの。(アルバイト)	イベントの企画・運営	2 名 (弘前大学) 1 名 (東北女子大学)
17	生涯学習課 (中央公民館)	アーティスト体験ワークショップ事業	市内の子どもたちに芸術文化への興味・関心を持ってもらうことを目的として、イベント「こどもアート体験ひろば」を開催するもの。	スタッフとして事業へ協力	17 名 (弘前学院大学)
18	生涯学習課 (中央公民館)	子どもリーダー養成事業	学校や年齢が異なる子どもたちが、様々な遊び・体験に取り組み、仲間と協力し課題解決を図るなど、達成感を共有し合う場を創出するもの。(アルバイト)	事業の企画、運営 (子どもへの支援)	約 6 名 (弘前大学、弘前学院大学、東北女子大学)
19	生涯学習課 (中央公民館)	キッズ☆ワールド支援事業	学校や年齢が異なる子どもたちが、仲間と協力するレクリエーションや遊びの活動をとおして、自身の成長を感じられる場を目指すもの。	レクリエーション内容の企画・運営	約 20 名 (弘前大学)

事業の参加に関する成果

- ・学生のまちづくりの実践の場となっている。
- ・学生が地域に出向くきっかけづくりとなっている。
- ・学生と市民が直接関わる場を創出することができている。
- ・子どもたちと学生の交流により、次世代の担い手育成となっている。
- ・若く行動力がある学生が事業に携わることで、スムーズな運営をすることができている。
- ・学生が参加するだけでイベントが華やかになり、盛り上がる。
- ・学生の専門性や特技を生かすことで事業内容の充実が図られた。(学習指導、留学生の活用など)
- ・ボランティアスタッフとして活動してくれることにより、事業費の軽減に繋がっている。

事業の参加に関する課題

- ・学生が毎年度入れ替わり、継続性がない。
- ・学生のアイデアを生かせない場合がある(子どもリーダー養成事業など)
- ・参加団体の後継者不足により、活動が終了となる場合がある。(ひろレポなど)
- ・土日のイベントではアルバイトを優先する学生も多いため、参加者の確保が難しい。

4) 補助制度の活用(まちづくり活動の企画、実践)

No.	部署名	事業名等	事業概要	関わり方	参加人数等 【R元実績】
1	企画課	学生地域活動支援事業	地域活動をする学生団体に補助金を交付するもの。(上限1件10万円、複数の団体による申請は上限20万円)	事業の企画、運営	採択数5団体
2	市民協働課	市民参加型まちづくり1%システム支援補助金	公募型の補助金制度として、市民自らが実践するまちづくり、地域づくり活動に係る経費の一部を支援するもの。(上限1件50万円、補助率9/10)	事業の企画、運営	学生団体1 弘前大学研究室1

補助制度の活用に関する成果

- ・学生発信の活動が生まれ、地域の活性化に繋がっている。
- ・事業の企画、プレゼン、実践と段階を踏むことで学生の人材育成が図られている。

補助制度の活用に関する課題

- ・事業によっては内容の更なるブラッシュアップが必要なものもある。
- ・応募団体の固定化。新規団体の発掘が必要となっている。

5) 学生の活動のPRの場

No.	部署名	事業名等	事業概要	関わり方	参加人数等 【R元実績】
1	企画課	学生地域活動支援事業成果報告会(大学コンソーシアム主催)	学生地域活動支援事業に採択された学生団体による成果発表会を実施するもの。	成果発表	採択学生団体 5団体
2	企画課	学生団体シンポジウム(大学コンソーシアム主催)	地域活動をしている学生団体の活動を紹介するシンポジウムを開催するもの。	成果発表	参加学生団体 14団体

学生の活動のPRの場に関する成果

- ・地域活動に積極的な学生団体の取り組み内容を周知する場を提供することができた。
- ・学生団体同士の交流の機会が創出された。

学生の活動のPRの場に関する課題

- ・全体的な周知不足により、一般市民の参加者が少なく、内輪の成果発表会にとどまっている。